

【27】家の外に逃げるか、家に閉じこもるか

わが国では一般の住宅は木造が多く、建物自体があまり堅固でないので、地震や水害の時の避難というと、自宅から出て外部にある学校等の公的施設の避難所へ逃げるのが一般的です。しかし、建物が石造、レンガ造で堅固な造りの欧米では（実はアメリカは木造住宅が多いのですが）、避難というと、とくに指示や命令が無ければ、建物の中に閉じこもるのが基本のようです。

わが国と異なる、狩猟文化の伝統と治安の混乱や戦乱の多発という長年の歴史から、避難というと野外や往来から自宅へ逃げ帰り、戸締りを厳重にして、鉄砲を構え息をひそめるといったスタイルが根底にあります。

対峙する相手が、洪水や地震の自然の作用ではなく、猛獣、盗賊、敵兵ですからこういう行動様式になるのでしょう。避難というのはそれぞれの民族の過去の被害の歴史と経験の上に立っての、いわば固有の文化なのです。

その文化の表現の一つが住居の玄関ドアの開閉の向きです。わが国ではマンション、公団住宅、そして近年のプレハブ住宅では玄関のドアは外開きになっています。

しかし、欧米というか国際的な共通方式は、家屋の内側へドアが開く内開きです。但し、人の大勢集まる劇場のようなところはもちろん外開きです。わが国でも、ホテルでは、廊下側へドアが開くのを避けることもあり、国際的な習慣に準じて室内側への内開きです。

逃げる方向が家の外側へというのは、住宅が災害や火災に脆弱である反面、外部の治安が良く安全であるという従来わが国の事情が大きく影響しています。しかし今後、住宅が耐震設計で丈夫になってくれば、水害のときも無理に家の外に逃げず、2階、3階に上れということが常識になるかもしれません。高齢化社会になってくるとその傾向が強まるでしょう。

ただし、これだけグローバル化と称して外国に合わせる傾向の強いわが国でも、玄関の土間で靴を脱ぐ習慣のため、ドアの外開き方式は変わらないように思いますが如何でしょうか。